

JPSA「2030年ビジョン」(概要)

【東京大会のレガシーを更なるパラスポーツの振興に繋げていくための課題】

- 1.パラスポーツの普及拡大のための環境整備
- 2.パラスポーツの競技力の向上と、普及拡大との「好循環」を推進するための体制強化
- 3.「好循環」を持続させるための更なるパラスポーツの理解促進とファンの拡大
- 4.パラスポーツの更なる発展に向けたJPSAの万全な基盤づくり

【パラスポーツ振興の理念】

- 1.多様性を尊重し、一人ひとりの個性を活かす
- 2.スポーツの価値を全ての人が共有する
- 3.スポーツを通じて障がい者の社会参加を広げる

<パラスポーツ=もうひとつのスポーツ>

- 一般のスポーツをベースに障がいの種類や程度に応じてルール等を工夫しているスポーツ
- 障がいのある人のために考案されたスポーツ
- 障がいの有無に関わらず共に楽しめるスポーツ

【ミッション3】
競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上

- 世界を目指すパラアスリートの活躍支援
～「JPC戦略計画」参照～
- 日本オリンピック委員会等との連携強化
- 日本での主要国際大会開催(2030札幌冬季パラ等)
- スポーツインテグリティの向上(ガバナンス強化等)

【ミッション4】
パラスポーツを通じた国際協力の推進

- 国際協力 ～「JPC戦略計画」参照～

【JPSAのビジョン】
「パラスポーツを普及・拡大する(裾野を広げる)」取り組みと、「競技力の向上を図る(山を高くする)」取り組みを「好循環」させることによる「パラスポーツの振興」を通じて、多様性を認め合う「活力ある共生社会の実現(木を繁らせる)」を目指す

【JPC戦略計画】

<戦略1>
世界を目指すパラアスリートの活躍支援

- トップアスリートの強化(国際大会派遣、重点強化競技のメダル獲得に向けた強化等)
- アスリート発掘・育成(育成パスウェイ構築等)
- 競技団体強化(マネジメント力向上研修等)

<戦略2>
パラリンピックムーブメントの推進

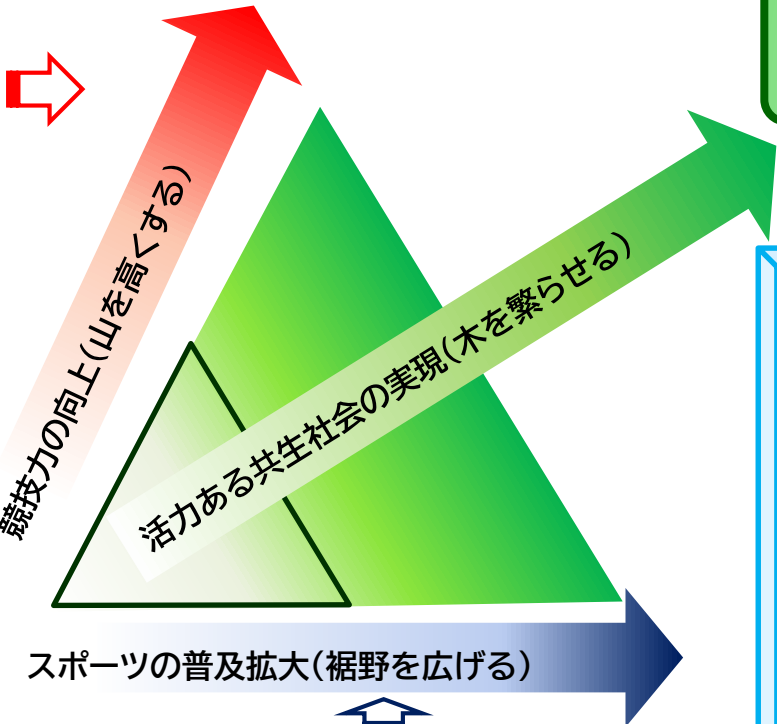
- パラスポーツの価値向上(知的財産管理等)
- パラスポーツ教育(I'mPOSSIBLE等)
- アスリート教育(人間力向上) (インテグリティ・ハラスメント研修会、教育プログラム開発等)
- 国際協力(国際機関の役員・委員輩出等)

【ミッション5】
共生社会実現に向けた国民の意識変革の促進

- パラスポーツ大会等の開催
(競技力向上とファン拡大のためのジャパンパラ大会等)
- パラスポーツの理解促進および広報
(パラスポーツ・共生社会推進月間<8月>等)

【ミッション6】
JPSAの万全な基盤づくりの実現

- 組織体制の強化(業務遂行体制の見直し等)
- 財政基盤の充実・安定化(企業スポンサー制度等)



【ミッション1】
パラスポーツの普及拡大の実現

- 普及拡大の環境づくり(全国障害者スポーツ大会、学校でのパラスポーツ理解の環境づくり等)
- 指導者の育成(スポーツサポーター導入など指導者数の拡大等)
- 振興に関する連携・協働(日本スポーツ協会との連携等)
- パラスポーツに関する調査・研究(大学との協働等)

【ミッション2】
全国における行政、学校、関係諸団体等との強い連携・協働

- 県市等での振興(専任コーディネーター配置等)
- 県市等での関係団体間の連携(ブロック連絡協議会活用等)

【2030年目標】～「数字」はミッションと連動～

- 「1」 ○障がい者成人の週1回以上のスポーツ実施率目標(文部科学省)達成への貢献
○障がい者スポーツ指導者資格保有者が全国で5万人
- 「2」 ○全国の全ての県市等において障がい者が日常的にスポーツを楽しむ環境が整いスポーツに参加
○全国の全ての県市等において障がい者スポーツ協会、同指導者協議会、行政が連携を深め、三者が主体的にパラスポーツ振興を推進
- 「3」 ○パラリンピック金メダルランキング
夏季(2028)で世界トップ5
冬季(2030)で世界トップ3
○パラリンピック・デフリンピック等の各種実施競技の国際大会を日本で毎年開催
○全ての競技団体の法人化とガバナンスコードを遵守した自律的な運営の実現
- 「4」 ○国際機関(IPC等)の役員や競技運営役員等を輩出
- 「5」 ○意識調査でパラスポーツ・共生社会に関する国民の理解・意識変革が着実に進展
- 「6」 ○部門を超えて対応できる柔軟なJPSA組織の実現
○JPSAオフィシャルパートナーの拡大(40社)と「JPCスポンサー制度」の新設による財政基盤の確立